

禁煙治療の概要説明 20260320

健康保険を使った禁煙治療ができます。これは喫煙を単なる習慣や嗜好と考えるのではなく、ニコチン依存症という病気としてとらえ必要な治療を行うという考え方です。治療は一定の条件を満たした喫煙者ならどなたでも受けることができます。

1. どんな治療をするの？

①治療前：問診・診療 禁煙治療のための条件の確認

②5回の受診が必要です

初回 2週 4週 8週 12週

③治療中：

A) 診察

B) 呼気一酸化炭素濃度の測定

C) 禁煙実行、継続に向けてのアドバイス

D) 禁煙補助薬の処方

2. 費用はいくらかかるの？（治療全部での総額）

バレニクリン： 3割負担額 約 20,000円

※当院ではニコチンパッチは使用していません。

3. 禁煙の薬ってどんなくすり？

ニコチンパッチ、ニコチンガムまたはバレニクリンが使えます。これらの薬は禁煙後の離脱症状をおさえ、禁煙を助けてくれます。

禁煙の成功率はニコチンパッチ、ニコチンガムで約2倍、バレニクリンで約3倍高まります。

4. 治療の対象

現在タバコを吸っている方で、ただちに禁煙をしようと思っている方が禁煙治療の対象となります。

5. 注意点

現在、精神科や心療内科等でうつ・統合失調・神経症等の治療を受けている方は、その担当医と禁煙治療の可否について相談してください。特にバレニクリン（チャンピックス）服用で病状に影響することがあります。

6. ブリンクマン指数

喫煙年数 1日の喫煙本数 ブリンクマン指数

× =

7. チェック項目(TDS)

下記の質問で該当する項目は「はい」とお答え下さい。

この質問で5項目以上「はい」に該当する場合に、保険診療での禁煙治療が可能となります。

①自分が吸うつもりよりも、ずっと多くタバコを吸ってしまうことがありましたか。	はい	いいえ
②禁煙や本数を減らそうと試みて、できなかったことがありましたか。	はい	いいえ
③禁煙したり本数を減らそうとしたときに、タバコがほしくてたまらなくなることがありましたか。	はい	いいえ
④禁煙したり本数を減らしたときに、次のどれかがありましたか。 (イライラ、神経質、落ちつかない、集中しにくい、ゆううつ、頭痛、眠気、胃のむかつき、脈が遅い、手のふるえ、食欲または体重増加)	はい	いいえ
⑤ 問④での症状を消すために、再びタバコを吸い始めることがありましたか。	はい	いいえ
⑥ 重い病気にかかったときに、タバコはよくないとわかっているのに吸うことがありましたか。	はい	いいえ
⑦タバコのために自分に健康問題が起きているとわかっているにもかかわらず、吸うことがありましたか。	はい	いいえ
⑧タバコのために自分に精神的問題が起きているとわかっているにもかかわらず、吸うことがありましたか。	はい	いいえ
⑨自分はタバコに依存していると感じることがありましたか。	はい	いいえ
⑩タバコが吸えないような仕事やつきあいを避けることが何度ありましたか。	はい	いいえ

8. 呼気中一酸化炭素濃度

ppm

禁煙宣言書

私はニコチン依存症であることを認識し、喫煙の害ならびに禁煙の効果を十分に理解した上で、
____月 ____日より、禁煙することを宣言します。

20 ____年 ____月 ____日

患者氏名

担当医 かしわ沼南みらいクリニック 加藤義一